

エコアクション21 環境経営レポート 2024年度版(第7版)

対象期間:2023年11月1日～2024年10月31日



発行日:2024年12月20日

株式会社 地盤改良堀田

1. 事業所の概要

1. 事業者及び代表者氏名

株式会社 地盤改良堀田
代表取締役 堀田 郁

対象期間:2023年11月1日～2024年10月31日

2. 所在地

本社 〒929-1125 石川県かほく市宇野気ト115番地1

3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	谷 真規子
連絡担当者	同上
連絡先	〒929-1125 石川県かほく市宇野気ト115番地1
電話	076-283-1241
ファックス	076-256-1344
e-mail	m.tani@i-hotta.co.jp

4. 事業の規模及び事業内容

設立	1993年5月
資本金	1,000万円
従業員数	9名
延べ床面積	104m ²
2024年度売上	251百万円（弊社会計年度 11／1～10／31）
事業内容	太陽光発電施設設置工事、土木工事業、地盤改良設計・施工

5. 対象範囲

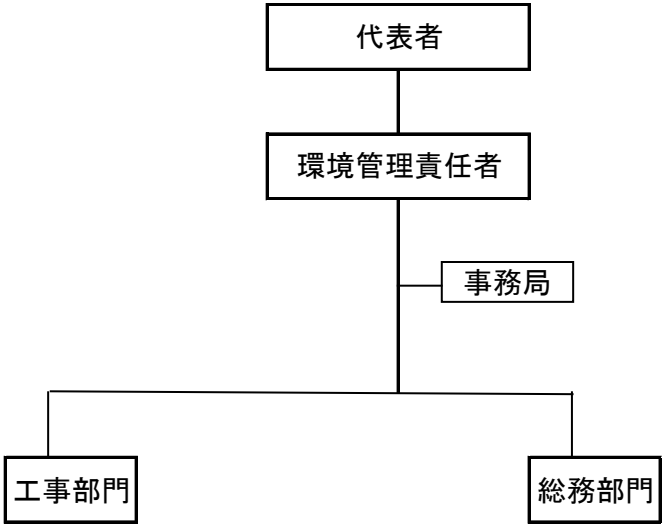
1. 認証・登録範囲 全組織 本社
太陽光発電施設設置工事、土木工事業、地盤改良設計・施工

2. 環境活動レポートの
対象期間及び発行日 2023年11月1日～2024年10月31日
2024年12月20日発行

2. 株式会社 地盤改良堀田
エコアクション21 推進体制表

2023.11.1現在

2024年度版(第7版)



合計9名

【責任者の役割】

代表者	環境経営方針の制定
	環境管理責任者の任命
	環境保全に関する人、もの、資金、情報の提供
	エコアクション21システムの見直しをする
環境管理責任者	エコアクション21活動責任者
	環境経営レポートの作成、公開
	環境経営目標、経営計画の作成と進捗管理
	環境関連法律の順守評価
事務局	環境管理責任者の補佐
	進捗管理のデータ収集、整理

3. 環境経営方針

株式会社地盤改良堀田は「顧客重視」と「経営規模の拡大」を経営方針に掲げ主に土木工事業に取り組む持続可能な環境型社会を目指して参ります。

そのため継続的に改善を図るとともに、社員一丸となって取り組んでいくことを誓約いたします。

1. 具体的に次のことに取り組めます。

- ① 太陽光発電設置工事を通じて環境負担の削減をしていきます。
- ② 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素の排出量の削減をしていきます。
- ③ 産業廃棄物の3R(減量・再利用・再生利用)の推進をしていきます。
- ④ 洗車等で使用する水使用量の削減をしていきます。
- ⑤ 環境汚染の防止に努めます。
- ⑥ 地域とのコミュニケーションを密にし、社会貢献をしていきます。

2. 事業活動に関する環境関連法規制や当社が約束したことを厳守します。

3. 環境経営方針はすべての従業員に周知します。

制定日:2022年11月1日

株式会社 地盤改良堀田

代表取締役 堀田 郁

4. 環境経営目標とその実績

(過去3年間の実績)

	単位	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	82,274	103,134	123,734
購入電力	kWh	18,473	22,081	12,564
ガソリン	ℓ	5,523	6,740	6,132
軽油	ℓ	23,386	30,429	40,166
産業廃棄物の3Rの推進	%	100	100	100
水使用量の削減	m ³	278	204	148
太陽光発電設備設置工事	件	5	19	14

※購入電力の二酸化炭素排出量はKDDIの2023年度調整後排出係数 0.468kg-CO₂/kwhを使用。

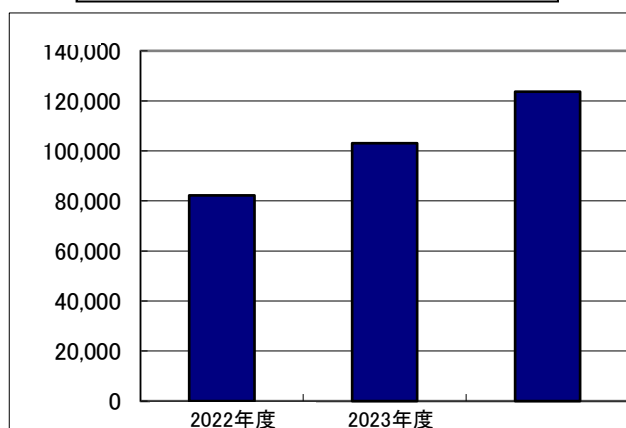
① 二酸化炭素は購入電力が大幅に減ったためです。

要因は県外での大型工事の受注で長期間出張があったためです。

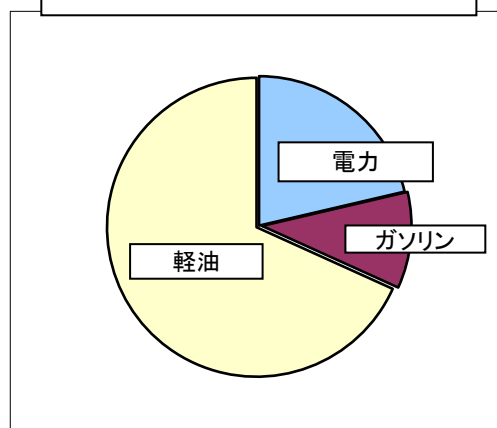
② 自社の受注工事で発生した廃棄物は適正に処理するとともに3Rに努めています。

③ 水は事務所でのトイレ、洗車でのものであり少量です。

二酸化炭素排出量の推移(kg-CO₂)



二酸化炭素排出量の内訳(%)



(今後3年間の目標)

	単位	2023年度	2025年度 目標	2026年度 目標	2027年度 目標
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	103,134	102,103	101,082	100,071
購入電力	kWh	22,081	21,860	21,642	21,425
ガソリン使用量の削減	ℓ	6,740	6,673	6,606	6,540
軽油使用量の削減	ℓ	30,429	30,125	29,824	29,526
産業廃棄物の3R推進	%	100以上	95以上	95以上	95以上
水使用量の削減	m ³	204	202	200	198
太陽光発電の設置工事	件	19	20	21	22

①二酸化炭素排出量・電力・ガソリン・軽油使用料は2024年度の実績を基準にできないため2023年度の実績を基準として毎年1%削減とする。

②産業廃棄物の3R推進は、95%以上を目標とする。

③水使用量は2023年度の実績を基準として毎年1%削減とする。

④太陽光発電設置工事は、当面毎年1件増やしていく目標とする。

5. 環境経営計画、取組、評価及び次年度の取組

	具体的取組内容	取組結果 評価	次年度 の取組	担当部署 (責任者)
排出量の削減 (ガソリン・軽油使用量の削減) (電気使用量の削減)	燃費のよい車両の導入	○	継続	工事部
	車両の適正運転を行う(エコドライブの推進)	○		
	重機の効率運転、省燃費運転に努める	△		
	車両の効率的運行に努める。	○		
	空調温度の適正な管理をする(28℃、22℃)	×		全員
	使用していない電気器具の主電源を切る	△		
	照明の管理(昼休み、不在時の消灯徹底)	○		
産業廃棄物の3R推進	分別を徹底し再利用、再資源化に努める	○	継続	工事部
	工事における分別解体・分別排出を徹底する	○		
水使用量の削減	洗車で使用する水を減らす	○	継続	全員
	トイレ、洗濯、流し台での節水に努める	○		
太陽光発電の設置工事	既存取引先での取扱量の増加を行う。	○	継続	全員
	顧客満足度を向上させる	△		
	企業PRの推進をする	△		
教育訓練及びコミュニケーション	エコアクション21ガイドラインの勉強会をする	×	継続	全員
	安全衛生に関する講習会を受ける	○		

○ 実施できた △十分ではないが出来た ×出来なかった

6. 2024年度の目標、実績と評価

	単位	2024年度		達成率 (実績／目標)	評価	評価基準
		目標	実績			
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	102,103	123,734	1.21	△	○：達成 △：1～10%未達 ×：10%以上未達
電気使用量の削減	Kwh	21,860	12,564	0.57	○	
ガソリン使用量の削減	ℓ	6,673	6,132	0.92	○	
軽油使用量の削減	ℓ	30,125	40,166	1.33	△	
産業廃棄物の3Rの推進	%	95以上	100	0.95	○	
水使用量の削減	m ³	202	148	0.73	○	
太陽光発電の設置工事	件	20	14	0.70	○	

(実績と評価)

①二酸化炭素の排出量は、県外出張が多くその分の電気代がお客様負担だったため大幅に減少した。

重機を使用する工事が増えたため軽油の使用量が増加した。

②産業廃棄物のリサイクル推進は実施できた。

③水使用量は長期出張分の水道料金もお客様負担だったため大幅に減少した。

④太陽光発電設置工事は件数は減少したが売上は大幅に増加した。

7. 環境関連法規の順守評価と違反訴訟等の有無

法規名	順守事項	当社の順守内容	チェック日
産業廃棄物処理法 (廃掃法)	運搬・処分は許可を受けた ものが行う	契約書(許可証、有効期限の チェック)	2024.6.30
	廃棄物処理状況の報告 (前年度実績を6月までに報告)	マニフェスト管理台帳の報告	2024.6.30
	マニフェスト管理	帳簿の作成(90日、180日) マニフェスト管理台帳	2024.6.30
	収集運搬車両の対策を	廃棄物飛散防止パイプ、カバー 運搬車両の表示(許可番号等)	2024.6.30
フロン排出抑制法	業務用エアコンの点検 廃棄時の適正な処理	3ヵ月毎の点検、記録の保存 廃棄時の適正な処理	2024.6.30
家電リサイクル法	廃棄時の適正な処理	リサイクル料金の支払い	2024.6.30
建設リサイクル法	建設工事の分別徹底と リサイクル率向上	マニフェスト管理台帳 リサイクル率向上と実績管理	2024.6.30
自動車リサイクル法	廃車時、購入時の適正な処理	廃車時引取業者への引き渡し 購入時リサイクル料金の支払い	2024.6.30
道路運送車両法	業務用車両の運行管理	車検、車両別運行管理	2024.6.30

環境関連法規の違反及び苦情等はありませんでした。

なお、関係当局より違反、訴訟等の指摘は過去には一度もありませんでした。

環境関連法規に関しては自らが定期的に順守状況をチェックしています。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

株式会社地盤改良堀田は、2017年11月よりエコアクション21に取り組んで7年目となりました。二酸化炭素排出量の削減においては、工事で使用する軽油の使用量削減の取組として車両、重機の効率的運転、アイドリングを減らす等の取組を引き続き行なっているので従業員の意識も定着してきたと思います。

2023年7月の大雨による災害により公共工事が追い付かない中、1月には能登を中心に地震があり、かほく市でも被害がありました。仕事の受注も多く、環境経営方針・環境経営目標・計画に関してはこのまま継続していきます。

2024年11月30日

株式会社地盤改良堀田

代表取締役 堀田 郁